

文庫案内
〔浦井文庫〕

浦井鏗一郎先生の蔵書（和漢書二九八冊、洋書一八五冊）

浦井先生は明治二十五年東大史学科を卒業後四高教授として迎えられ二十七年図書館長（図書主幹）になられた。先生は名利に恬淡、その後幾度か東大から招かれたが肯われず、金沢で一生を終えられた。教壇に立たれると、カード二三枚持っただけで講義は理路整然、年号月日、人名、事件など悉く暗記されていたのに学生は驚いたものである。

明四十年「西洋歴史年表」を富山房より発行された。先生の唯一の著書であるが論文は「史学雑誌」や「北辰会雑誌」などに載せられている。

明治十九年独国のルードウィヒ・リースが東大で史学を講じ、ランケ学派の移植につとめた。そのため先生も自らランケの学風が備わり、先生の蔵書の中にも「ランケ世界史」「ウエーバ世界史」「リース世界史講義」「モムゼン・ローマ史」「ベルンハイム史学方法論」「ペロッホ・ギリシャ史」「ランプレヒト独逸史」「マイエル古代史」などが挙げられ、同時に「プレステッド古代史」「マイヤー一般歴史」「ウィリヤムソン支那史」「マコーレー英国史」など英書も数えられる。先生は四高図書館を利用されることが多く、数千冊の図書を集収、読破された。

昭和七年五月十三日夜読書中に突然逝去された。全校の驚がくはいうまでもなく、市民も深く哀悼の意を表した。宮中より勅使を差遣、葬儀は校庭でおこなわれ、儀仗兵一小隊が参加した。

この文庫は遺族並びに教職員、学生、卒業生から四高に贈られたものであるが、四高終幕当時、学部教室へ大部分運び去られ昔時の面影がない。今後できるだけ復元につとめたものである。